

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 村尾 尚規

審査担当者 主査 教授 笠原 正典
副査 教授 瀬谷 司
副査 教授 山本 有平
副査 教授 清水 宏

学 位 論 文 題 名

ケロイドにおける制御性 T 細胞

学位審査において申請者は以下の内容について発表した。ケロイドは真皮線維芽細胞の増殖とコラーゲン産生を主体とする疾患であるが、炎症性疾患としての側面を持つ。ケロイド内に浸潤する CD4 陽性 T 細胞、特に制御性 T 細胞のケロイド病態の関与について、免疫組織学的染色や末梢血からの制御性 T 細胞誘導により、免疫バランスの観点から解釈した。また、ケロイド線維芽細胞—CD4 陽性 T 細胞共培養モデルを用いて、CD4 陽性 T 細胞や制御性 T 細胞とケロイド線維芽細胞の相互作用について検証した。いずれも世界で初めての試みであった。

質疑応答についての概要は以下の如くであった。

瀬谷教授から、増殖する細胞の由来、免疫のケロイド病態への関与についての過去の研究の有無、インターロイキン 6 とケロイド発症の関連性、ケロイドにおけるインターロイキン 6 の持続的高発現の原因、制御性 T 細胞と線維芽細胞の直接的関連性について質問があった。清水教授から、全身の制御性 T 細胞のケロイド病態への関与について質問があった。山本教授から、他の臓器の炎症性疾患、線維化疾患と比較した際の制御性 T 細胞の皮膚病変における作用の特異性の有無について質問があった。笠原教授から、動物モデルやケロイド微小環境の実験的再現の可能性について質問があった。

申請者は自験例と過去の文献を引用し回答した。

この論文は、これまで内容を発表した国内の学会で高く評価され、ケロイドの病態解明、治療法開発に関する基礎および臨床研究結果に有用な新知見を付与するものと期待される。審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。